

Magazine NUCL

さあ、未来を語ろう。

LET'S TALK
ABOUT
THE FUTURE.

Vol. 2
2025 OCTOBER
日本大学法学部
広報誌 [NUCL Magazine]

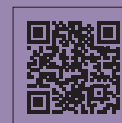


Magazine
NUCL Vol. 2 2025 OCTOBER NUCL Magazine 2025年10月発行 日本大学法学部広報 通巻149号 発行：日本大学法学部企画 広報委員会



広報誌のバックナンバーは、日本大学法学部ホームページにてご覧いただけます。
<https://www.law.nihon-u.ac.jp/>

SCAN HERE



日本大学法学部
TikTok公式アカウント
@law_nihon



日本大学法学部
Instagram公式アカウント
@law_nihon



「NUCL Magazine」の
スペシャルムービーを
配信中！





LET'S TALK ABOUT THE FUTURE.

NUCL Magazine Vol.2 2025 OCTOBER CONTENTS

- 01 さあ、未来を語ろう。
- 03 センパイたちの未来日記
- 05 わたしの就活奮闘日記
- 07 未来を変える研究
- 自分と向き合い、
09 これからの未来のために
今、読むべき8冊。
- 11 PICKUP SEMINAR
「日法のゼミ探訪」
- 12 GRADUATE INTERVIEW
「日法人 Nichiho-Jin」
- 13 NICHIGO TOPICS
- 14 EVENT SCHEDULE
編集後記



さあ、未来を語ろう。



学びは、未来をつくる力になる。
大学で培われた知識と経験は、
社会の中で確かな力となって息づいています。
本号では、卒業生の活躍や先輩たちの奮闘、
研究活動など、挑戦の軌跡を通して、
日本大学法学部の学びが
未来をどう切り拓くのかを紹介します。
ここから始まる、
あなたの未来へのヒントを届けます。

センパイたちの未来日記

GRADUATES' FUTURE DIARY

RYO KUDOMI

GRADUATE DATA

久富 瞭 さん 一般社団法人 日本音楽著作権協会
経営法学科 知的財産コース 2018年度卒業

GRADUATES' FUTURE DIARY

#1

1・2年次

文化祭の実行委員会でミスコンの担当をしていました。イベントの企画・運営はもちろん、人前で話すことや出演者に対するフォローなど、今の仕事につながる活動だったと思います。

3年次

本格的に就活がスタート。視野を狭めることなく、様々な業界・業種の方々にお会いすることを心がけ、数多くのインターンシップに申し込み、参加していました。

4年次

夏には就活を終えられるようスケジュールを立てて活動していました。当協会に内定をいただいた後は、セミナーの学びと並行しながら、学生時代にしかできないことを楽しみました。

QUESTION

学生時代の4年間、就職活動のポイントを教えてください。



PRIVATE PHOTO

音楽文化の発展に貢献していきたい。

音楽著作権管理の プロを目指し学び続ける

入社後は、大阪支部と横浜支部で計7年間勤務。飲食店やライブハウスなど、楽曲を利用する方々にライセンス手続きのご案内をしていました。基本的に「音楽」がある場所がフィールドになるため、様々な業種の方々とお会いすることになりました。時間をかけて説明し、納得いただけたときは大きな達成感がありましたし、非常に濃密な7年間でした。

現在は、本部の会務部に所属。作詞家作曲家・音楽出版社の窓口として、入退会手続きや契約のアフターフォローなど、権利者のトータルサポートに従事しています。支部時代とは異なり、接するのは権利者の皆さん。そのため、音楽業界の慣例や時代の変化について知識を得ることはもちろん、JASRAC（日本音楽著作権協会）の歴史や相続法についても学び直しています。問合せには業界独特の質問もあり、二つとつの業務に「考える」作業が必要ですが、そこを乗り越えたときがこの仕事の醍醐味。これからもJASRACの魅力を感じ、これを乗り越えたいと学び続け、利用者にも権利者にも対応できる音楽著作権管理のプロを目指し、音楽文化の発展に貢献したいと考えています。

この仕事は経験と人脈が 世界を広げてくれる

学生時代の法律問題と違い、正解のない中で会社にとつての最適を考えることが今の私の役割。パナソニックグループ内の知的財産に関する業務に携わっています。

現在入社2年目で、1年目は研修の一環で権利化の業務を担当しました。理系の専門知識や職歴をバックグラウンドに持っている人が多いことを最初は意外に感じましたが、知的財産法は技術寄りの内容が多いため、学生時代とは違う視点でたくさん学びがありました。2年目からは主に契約業務を担当しています。契約書の知財条項を確認して問題がないか調べ、必要な条項を盛り込みます。自分たちの事業内容を細部までしっかりと理解し、かつ長期的視野で考えなくてはいけない難しさ、スケールの大きな仕事に携わっているやりがいを感じています。

知的財産業務は専門性の強い狭い分野と思われがちですが、会社の先輩たちを見ていて思うのは、経験を重ね、様々な人とつながることで世界がどんどん広がっていくということ。私は将来的には、グループが持っている特許権などの権利を外部活用して会社の利益につなげたり、グローバルに活躍したいと考えています。

知的財産業務で企業の未来を拓く。

GRADUATES' FUTURE DIARY

#2

LISHA ZHANG

GRADUATE DATA

張 麗莎 さん パナソニック オペレーショナルエクセレンス 株式会社
法律学科 総合法コース 2021年度卒業
大学院法学研究科 私法学専攻 知的財産コース 2023年度修了

QUESTION

学生時代の4年間、就職活動のポイントを教えてください。

1・2年次

文化人類学の授業で自分の思考を書き出すリアクションペーパーがそのまま日々の習慣となり、今に活かしています。スターバックスでのアルバイトを機に、働くことを初めて真剣に考えるように。

3・4年次

3年次から知的財産法セミナーに所属。企業の知的財産部門の方々の講演を聞いて知財とビジネスのつながりに興味を持ち、より深く学ぼうと大学院進学を決意。4年次は進学に向けて勉強中。

大学院

特許事務所でアルバイトをし、一般企業で働くこととの違いを理解。人と関わりながら働きたい私は就職先を企業に絞りました。米国への交換留学も経験し、海外勤務に関心を持つようになりました。

PRIVATE PHOTO



DIARY

01

PROFILE

西澤 大空 さん
法律学科 4年

内定先企業

大和証券株式会社

DIARY

02

PROFILE

日比野 友莉 さん
政治経済学科 4年

内定先企業

日本航空株式会社

なりたい自分に向かって、やるべき事をコツコツと！

苦手なことにもしっかり向き合い、克服。夢を現実に！

大学2年 冬

就職活動開始

就職指導課の「2年生のうちは幅広い業界を見た方がいい」の助言を受け、興味のある金融以外の業種も説明会に参加し、OB訪問や面接練習を重ねました。その中で、無形商材を人間力で勝負していくという証券会社に強く惹かれ第一志望に。就活で常に意識したのは自分を印象付けること！



大学3年 夏

インターンに参加

堂々とした態度と結果を残すことを自らの課し、数社のインターンに参加。大和証券はオンラインで商談のロールプレイングをするプログラムがあり、注目度の高い株について徹底的に調べ上げ、自分の意見も加えて発表。それを担当者や他の学生から評価いただいたことがうれしかったです。



大学3年 夏

志望企業の社員訪問

インターンに参加した企業からOB訪問の枠をいただき、可能な限り多くの現役社員の方に話を聞きました。仕事に関する質問のほか、最終面談の細かいアドバイスもいただきました。ずっと野球をやってきた私は、チームで目標を達成していく大和証券の企業風土に共鳴。入社を決意しました。



大学2年 冬

企業研究スタート

幼い頃から夢見ていた客室乗務員を目指し、JALエアラインスクールに参加。企業研究や自己分析、現役の客室乗務員さんによる面接練習に励みました。JALグループ全体で同じ方向を向き、仲間やお客様を大切にする企業風土に触れ、自分の目指すべき姿が明確になりました。



大学3年 夏～秋

オンライン講座に参加

夏は短期海外研修でイギリスへ。多国籍の学生たちと触れ合うことで、英語力が鍛えられました。秋からは、元客室乗務員の方が講師を務めるオンライン講座に参加。グループディスカッションの練習をするなど、同じ夢に向かう方々と交流できたことが大きな励みになりました。



大学3年 秋～

面接練習で苦手を克服

元々人と話すことがとても苦手でした。それをなんとか克服しようと就職指導課に通い、毎日のように面接練習をしていただきました。おかげで苦手意識がなくなり、本番は自信を持って臨むことができました。これからは、様々なお客様に対応できるよう手話を身につけようと考えています。



未来を変えよう研究

日本大学法学部には5つの研究所があり、それぞれの専門領域を深く掘り下げた研究が行われています。今回紹介するのはSDGsに関する共同研究で、11月3日のシンポジウムに向け準備が進んでいます。研究所をまたいだ形でプロジェクトはこれまでにない試みで、岩崎正洋教授にその取り組みについて伺いました。

シンポジウム

PROJECT LEADER INTERVIEW

「SDGsは社会の課題を解決できるのか」 ——SDGsを学問的に考える」

「みんな仲良く」「物を大切に」「食べ物を粗末にしない」……。SDGsのアジェンダに盛り込まれている目標は、私たちが子どもの頃から当たり前に言われてきたことです。しかし、社会や人類全体で見るとそれが守られていない。要は、これからの時代をどう生きていくかわねられているわけですが、社会科学や人文科学の分野において、これまでSDGsが積極的に議論されてきたとは言えませんが、一方で、そもそもSDGsは本当に良いのかという視点も大切です。そこで、実践的なことばかりに目がいきがちなSDGsを、あらためて日本大学法学部の5学科2領域で学際的に考えてみようというスタートにしたのが本プロジェクトです。

「みんな仲良く」「物を大切に」「食べ物を粗末にしない」……。SDGsのアジェンダに盛り込まれている目標は、私たちが子どもの頃から当たり前に言われてきたことです。しかし、社会や人類全体で見るとそれが守られていない。要は、これからの時代をどう生きていくかわねられているわけですが、社会科学や人文科学の分野において、これまでSDGsが積極的に議論されてきたとは言えませんが、一方で、そもそもSDGsは本当に良いのかという視点も大切です。そこで、実践的なことばかりに目がいきがちなSDGsを、あらためて日本大学法学部の5学科2領域で学際的に考えてみようというスタートにしたのが本プロジェクトです。



政治経済学科 教授
岩崎 正洋 先生



RESEARCH NOTES

これまでの研究経過報告

今あらためてSDGsについて考える

PHASE 01

それぞれの専門分野の垣根を越えて
SDGsに関する問題意識を共有

2023年秋に共同研究がスタート。日本大学法学部の5学科2領域および他大学の教員約15名でミーティングを重ね、それぞれ専門の立場からSDGsに関して率直な意見を出し合い、問題意識を共有。

PHASE 02

高校生でも手に取って読めるような『SDGsは実現できるのか——社会問題解決への取り組み』書籍化
ホームカミングデーでイベントを企画

『SDGsは実現できるのか——社会問題解決への取り組み』を11月に刊行し、日本大学法学部独自のSDGsに関する研究を紹介。また、11月3日開催のシンポジウムやホームカミングデーで研究成果を発表する。

PHASE 03

専門書を発行して社会に問題提起
英語版の制作も視野に広く発信する

第3段階の一つの形として、専門家同士の議論へとつなげることを目的に、2026年度に専門書を発行。また、英語版も制作して国内外に向けた広い発信を検討している。

5

RESEARCH INSTITUTES

日本大学法学部
5つの研究所

法学研究所

政経研究所と合同で『法学紀要』を年1回発行。社会貢献活動として一般向けの無料法律相談会を開催。8つの研究会に分かれて活動している。

#基礎法学

#公法学

#私法学

政経研究所

法学研究所と合同で『法学紀要』を年1回発行。共同研究をはじめ、研究発表会や外部ゲストスピーカーを招いての研究会などを開催している。

#政治学

#経済学

#財政学

#行政学

比較法研究所

欧文紀要“COMPARATIVE LAW”を年1回発行。年に複数回、外国の研究者を招へいし、相互交流や国際的知見を得るための研究会を開催。

#英米法

#ドイツ法

#フランス法

#EU法

#国際関係法

新聞学研究所

研究成果を研究所紀要の『ジャーナリズム&メディア』に掲載。新聞学研究会の開催や震災に係る共同研究、講座やワークショップも実施。

#ジャーナリズム

#メディア

#コミュニケーション

国際知的財産研究所

研究所紀要『日本大学知財ジャーナル』を年1回発行。弁護士や弁理士、特許庁の担当者などを講師に迎えて研究会を開催。

#知的財産法

#知財政策

#知財判例研究

#産業技術と知財

FUTURE-CHANGING RESEARCH



『民主主義の経済理論』
アンソニー・ダウンス 著（古田精司 監訳）（成文堂 1980年）

政治学と経済学は密接に関係しています。本書は、企業が利益を最大化するように、政党も得票を最大化するという経済学的視点から政治現象を分析したものです。この合理的な行動モデルにより、政党制や政策変更、新党参入などが説明され、社会科学に大きな影響を与えました。経済学の考え方を政治に適用したこの古典は、両分野を学ぶ学生にとって必読の一冊です。



『選挙制を疑う』
デーヴィッド・ヴァン・ヘイブルック 著（岡崎晴雄、デミトリ・ヴァン・オーグルベール訳）（法政大学出版局 2019年）

民主主義の根幹は何だと思いますか。その答えとして選挙を挙げる方も多いでしょう。しかしながら、選挙による代議制民主主義は危機的状況であるといえます。本書は、低投票率が示す代議制民主主義の危機を受け、選挙に代わる「抽選（くじ引き）」による新たな民主主義を提示します。抽選制は選挙に代わる選択肢となるのか、あるいは両立する仕組みなのか。現代民主主義のあり方を深く考察するうえで、本書は新たな視点を提供してくれそうです。



『「自分だけの答え」が見つかる13歳からのアート思考』
末永幸歩 著（ダイヤモンド社 2020年）

インターネットのフィルターバブルやエコーチェンバーにより、意見が偏る現代社会。そんな中で自己の主権を取り戻すための一冊です。本書は、ピカソの絵画を例に、写真登場以降の「どう見るか、どう伝えるか」という視点の重要性を示唆します。本書のアート思考を社会科学に応用し、多角的な視点から対象を深く観察し分析することで、社会に対する新たな見方を発見できるでしょう。



『空爆論 メディアと戦争』
吉見俊哉 著（岩波書店 2022年）

本書は、第一次世界大戦以降の「空爆」を「眼差しのテクノロジー」と捉え、その本質を考察します。近代戦争ではメディア技術が主役となり、高高度からの空爆は、上空から人々を支配し殺害する手段となりました。現在でも、ウクライナやパレスチナではドローンなどの新たな「眼差しのテクノロジー」が多くの死をもたらしています。テクノロジーの発達を引き起こす非対称的な戦争の道義性について考えてみてください。



『ジェンダーで学ぶメディア論』
林香里 著（世界思想社 2023年）

「ジェンダーなんて、むずかしそうだし、自分とはちょっと遠い話」などと思うかもしれませんが、メディアに潜む「こうあるべき」という偏りに対して感じる違和感は、自分の世界を広げる大切なサインです。本書は、そうした小さな問いかけを育み、ジェンダー問題が誰にとっても他人事ではないと教えてくれます。大学生活で多様な視点を得ることは、これからの人生を切り開き、未来を変えるあなたの力となるでしょう。



『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？ 経済と女性の話』
カトリーン・マルサル 著（高橋璃子訳）（河出書房新社 2021年）

SDGsに「ジェンダー平等の実現」が掲げられ、日本でも女性の活躍推進のための取り組みが進む中、私たちは日常生活でどれほどジェンダー平等を意識しているでしょうか。本書は、経済と女性の視点からこの問いを投げかけます。経済学の「常識」に疑問を呈し、GDPに換算されない家事労働や女性の貢献が経済学で無視されてきた点を浮き彫りにします。本書を通じて、経済学における女性の存在（不在）について学び、ジェンダー平等について考える機会としてもらいたいです。



『映画を早送りして観る人たち ファスト映画・ネガレール・コンテンツ消費の現在形』
稲田豊史 著（光文社 2022年）

本書は、映画などを短縮する「ファスト映画」や「切り抜き動画」が持つ著作権侵害の問題だけでなく、映画を早送りして観る現代の視聴行動に焦点を当て、その背景にある社会文化的な意味を考察しています。学生に対するアンケート結果等も含め、消費者行動に関わる客観データを分析して、社会文化論の観点から著作権という法制度の意義や限界、そして可能性を論じており、法的な問題に対するアプローチに関わる問題提起としても、刺激的な一冊。

本の世界に没頭する
時間が好き



自分と向き合い、 これからの未来のために 今、読むべき8冊。



読む前と読んだ後では
考え方が変わるかも？

『反哲学入門』
木田元 著（新潮社 2007年／文庫版2010年）

哲学は難しい用語や理屈でとっつきにくいと感じるかもしれませんが、それは言葉の難しさよりも、なぜ複雑な思考をするのか理解できないからかもしれません。本書は、哲学者たちの人生や生きた時代背景に触れながら、西洋と東洋、古代から現代までを横断し、哲学の本質とその発想の動機を平易に解説します。哲学史の全体像や骨格を提示し、現代哲学の難解さの秘密にも迫ることで、学問を学ぶ上での指針となる一冊です。

変化の激しい時代だからこそ、今の自分を見つめ、これからの未来を考えるために、自分自身と向き合う時間が必要です。法学部の先生方が選んだ、思考を深め、視野を広げる8冊をご紹介します。進路、社会、人生——それぞれの問いに向き合うヒントが、ここにあります。未来を描くための読書の旅へ、今、踏み出してみませんか。

RECOMMENDED BOOKS



推薦図書
ホームページにて法学部図書館の「推薦図書」紹介記事を読むことができます。

時間を忘れて読み
進めちゃいます。。！

GRADUATE INTERVIEW

日法人

No. 02

PROFILE

竹崎 祐喜さん

たけざき ゆうき / 2015年、法律学科(第一部・法職課程)卒。国家総合職。厚生労働省 医政局 医薬産業振興・医療情報企画課 所属。

水道橋のキャンパスから東京駅まで、親友と法律問題を出し合い、歩いて帰った日々は青春のいい思い出。法律を通じて多くの仲間と出会い、過ごした4年間は何物にも代えがたい宝物です。現在はその知識や活動経験を活かし、国民生活に直結している厚生労働省で働いています。

主な仕事内容として、国会答弁書の作成などを行う「国会対応業務」、法律や省令、告示等の改正などを行う「法令業務」、政策の企画や立案などを行う「企画・立案業務」があります。時間との勝負が求められる緊急案件も発生するため、日常的な勉強の備えが欠かせません。大学時代、法律の知識習得で培った継続的な努力が今も習慣になっています。同時に、いかに大学時代が勉強をする時間も環境も揃っていたかを痛感。学生の皆さんはぜひ4年間を有意義に過ごしてください。社会に出ると、一般教養は格好のコミュニケーションツールになります。

日大法学部の魅力は、何と言っても卒業生や関係者が多く、絆が強いことです。う。困難に直面した時に応援してくれる人がいる心強さを、在学時も今も感じます。それは同時に、将来に向けた挑戦への大きな力になると信じています。

MY MEMORIES

司法修習生の給費制復活に奔走

私が入学した2011年の10月末、司法制度改革により、修習中の司法修習生への給与の支給(給費制)が無くなりました。これに疑問を感じた私は、給費制の復活を求める弁護士や学生等が所属する団体に参加。学生代表となり、国会議員要請や集会、ピラ配りなど様々な活動を仲間と行いました。結果、2017年に司法修習給付金制度が創設され、給費制が復活。これは私の人生における貴重な経験となりました。司法科研究員の職員や講師の皆様にもご支援いただき、深く感謝しています。

PICKUP SEMINAR

日法のゼミ探訪

SEMINAR REPORT Vol.02

約100のゼミナールを有する日法のゼミを覗いてみよう!

Vol.02

竹本ゼミ

(公共経済学ゼミナール)

研究テーマ

行動経済学を応用して公共政策を考える

学科にとらわれず、自分の興味のあるテーマに合わせて選択できる日法のゼミ。今回は、政治経済学科の竹本亨教授が指導教員を務めるゼミの活動内容をご紹介します。

身近な事例をもとに、科学的に検証する力を身につける。

竹本ゼミで学ぶのは、心理学の視点を取り入れた新しい経済学「行動経済学」です。人々の意思決定の仕組みを、より現実に近い形に改善し、その成果を公共政策に活かすことを目指しています。そのために、フィールド実験やアンケート調査に取り組んでいます。行動経済学では、社会的に望ましい行動を人々が自然に選べるよう促す手法を「ナッジ」と呼びます。以前のゼミ研究では、「階段を使うとおみくじが引ける」という仕掛けを導入し、おみくじの有無が学生の階段利用を促進するかを検証しました。具体的には、おみくじを設置した校舎と設置しない校舎の双方で、

階段とエレベーターの利用者数を計測しました。比較した結果、おみくじを導入すると学生は階段をより利用するようになることがわかりました。このように竹本ゼミでは、学生にとって身近なテーマを題材に、現実社会での行動変容を検証しています。竹本教授が重視しているのは「科学的に検証する力を身につけること」です。正しい検証方法を実地で学び、得られたデータをもとに分析し、仮説が支持されるかどうかを確認めます。こうしたプロセスをしっかりと理解し、実践できるよう、学生たちは日々研究に励んでいます。

竹本ゼミでは、学生主体のサブゼミも行っています。ゼミナール論文の作成に必要な技術を身につけるため、4年生が先生役となり、3年生を指導します。ゼミ研究やフォーラム発表といった必須の活動以外は、学生の自主性をできる限り尊重しています。そのため、学生たちは自分のペースで、のびのびと活動できる環境が整っています。

12

11

01

法桜祭 2025 開催！
笑顔♡咲く♡2日間

法桜祭とは、日本大学法学部（神田三崎町キャンパス）で開催される学部祭です。今年度は11月3日（月・祝）・11月4日（火）の2日間にわたって開催いたします！今年のテーマは「咲（さく）」。法桜祭を通して、ご来場の皆さまの笑顔が満開になるような、心温まる企画をたくさんご用意してお待ちしております。テーマパークやお化け屋敷、模擬店、ライブ企画など、「学部祭といえは！」の定番イベントに加え、日大法コンテスト、経済学部との合同パレード、警察とのコラボ企画など、法桜祭ならではの特別な企画も盛りだくさんです！皆さまのご来場を、心よりお待ちしております。最新情報は各種SNSでも随時発信中です。ぜひフォローしてチェックしてください！



02

法学部に移管された貴重書
『国富論』初版本——



03

10号館にてインターンシップ
合同説明会を開催

2025年5月15日（木）22日（木）、29日（木）の3日間で、インターシップ合同説明会を開催しました。今年度が2回目の開催となり、対面での開催は初となりましたが、学部3年生を中心に多くの学生が各企業の説明会に足を運びました。企業は、集英社、東京海上日動火災保険、東京メトロ、野村證券、みずほ銀行など、様々な業界から16社が来校し、学生のために業界・企業の説明を実施しました。1企業あたり30分の説明会を最大4回実施し、各企業各回とも盛況で、3日間合計1012人（延べ人数）もの学生が参加しました。採用担当者に積極的に質問をする学生も多く、インターシップへの学生の関心の高さが窺えました。



● 日本大学法学部 EVENT SCHEDULE OCTOBER 2025 - MARCH 2026

[illegible][illegible]

※★印は有料で事前申込が必要

※就職指導課のイベントの予定は、今後変更となる可能性もありますので、予めご了承ください。イベントの詳細は「LiveCampusU」、「キャリア支援サイト」、「就職指導課公式LINE」でお知らせします

※対象 ①…1年生、②…2年生、③…3年生・院1年生、④…4年生・院2年生、無し…全学年

編集後記

法学部企画・広報委員会は、前学期に2025年度の学生メンバーを募集しました。その結果、法学部公式TikTok・Instagramに係る業務に19名、広報誌に係る業務に6名の学生が参加してくれることになりました。これから学生目線のリアルな情報をお伝えできるように、新メンバーとともに様々な企画に取り組んでいきますので、楽しみにしてください。

本号の制作にあたっては、多くの在学生と卒業生、教職員の方々にご協力をいただきました。また、「RECOMMENDED BOOKS(P.09-10)」では、版元の出版各社および日外アソシエーツ(株)「BOOK データASPサービス」様より書影をご提供いただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

NUCL Magazine 編集長
新聞学科教授
石川 徳幸

[学生広報誌スタッフ]

飯島 もも香	木田 輝
五井 悠介	小平 琴葉
篠宮 沙希	橋畑 李瑚

[撮影協力]

園田 莉音 廣川 裕也
石川ゼミナール有志

COVER



日本大学法学部
経営法学科 4年
平林 翼さん